



医学部脳神経外科学講座の 臨床教授を拝命して

藤田医科大学 医学部
脳神経外科学 教授

早川 基治 (14回生)



この度、2023年2月をもちまして医学部脳神経外科学 臨床教授を拝命しました。就任にあたりご尽力いただいた先生方に心より感謝申し上げますとともに、この場をお借りして藤医会の先生方や会員の皆様にご挨拶申し上げます。

私は1991年に本学を卒業後、故神野哲夫教授の主宰される脳神経外科へ入局しました。本学での2年間の研修終了後には関連病院へ2年間出張し、本学に戻って参りました。1998年に医学博士を取得し、その後約1年間アメリカ留学(University of California Los Angeles, division of Interventional Neuroradiology)をさせていただきました。ここでは私の専門にしている脳神経血管内治療について勉強してきました。当時はこの治療分野が黎明期であり、留学先の教室では臨床と研究(主に新規デバイスの開発)がエネルギーに日々行われていました。医療の発展の一部をリアルタイムで見ることができ、非常に刺激的な留学生活を送れました。帰国後は脳神経血管内治療を専門に診療と臨床研究を行ってきました。

教室では、アジア各国から多くの留学生が脳神経外科の勉強をしに来ていました。言葉や習慣の違いから日々、大なり小なりの事件が起きていました。また、神野哲夫教授指導のもとインドネシアやインドなどの途上国への学術交流などは途上国の医療状況を直接見学できる貴重な時間となりました。佐野公俊教授の時にはモンゴルへ訪問する機会があり、同様に現地の医療状況を見学してきました。草原のゲルに宿泊した時には周囲に明かりがないため、夜空には満天の星空があり、ただただ呆然と眺めていたことが記憶に残っています。

現在の廣瀬雄一教授の時にはミャンマーへ医療支援に行く機会が多くあり、現地で診察や脳神経血管内治療とその指導を行ってきました。一口に途上国といっても国や地域により事情

が大きく異なるため、現地に合わせた対応が必要になります。特に最近の事情としてはどこにいても皆、スマートフォンを持っています。それこそ、スラムへ行っても住民はスマートフォンを持っています。現在の情報社会では国境は関係なく、現地のドクターは、よく勉強しており、最新の情報もよく知っています。医療機器に関しては都市部の一部では必ずしもハイグレードとは限りませんが最新のものが導入されています。その状況で診療や治療をするためには、まず、自分が何者であるかを知ってもらわなくてはなりません。過去に藤田医科大学へ留学した医師が力になってくれますが、それでも大変でした。彼らの大切な患者さんを紹介してもらい、手術や治療を行うことは患者さんだけでなく、サポートしてもらう医師やコメディカルに自分を認めてもらわなくてはなりません。また、医療体制や設備、習慣も異なるため、普段なんとなく行っている準備や行為ひとつひとつに対して目が離せません。コロナやクーデターにより現在はミャンマーに訪問しにくくなっていますが、今でも時々連絡を取り合い、時にアドバイスをすることもあります。

2022年8月からは藤田医科大学岡崎医療センター脳神経外科へ診療科責任者として赴任しました。大学病院としての責務だけでなく、地域医療への貢献や後輩の指導はもとより、微力ではありますが、病院全体のことも考えることが多くなりました。自分の強みを単に伸ばすだけでなく、診療科として全体的にレベルが上がるように頑張っていきたいと考えています。また、病院の規模が本院と比べると小さいので、他科の医師が近くにいるため相談のしやすい環境づくりや、科に関わらず、若手医師のレベルアップにも貢献していきたいと思います。同窓の先生方におかれましては今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。





医学部 産婦人科学講座の 臨床教授を拝命して

藤田医科大学 医学部
産婦人科学 教授

西尾 永司 (20回生)

2023年4月1日付きで藤田医科大学医学部産婦人科学講座臨床教授を拝命しました。就任にあたり、多大なるご支援ご指導を賜りました産婦人科学講座西澤春紀教授、婦人科学講座藤井多久磨教授には心より感謝申し上げます。私は1997年に本学を卒業し、藤田保健衛生大学(現藤田医科大学)医学部産婦人科学講座に入局し、臨床・研究・教育に携わってきました。

臨床は生殖補助医療、婦人科内視鏡手術、女性医学(更年期、漢方、内分泌)領域で自己研鑽と後進育成に努めてきました。2013年に前任者から不妊症部門責任者の職を引き継ぎ、2013年に51件だった体外受精件数を現在は5倍近くまで増加することができました。現在は世界初の顕微授精自動化システムと遠隔治療を藤田医科大学東京先端医療研究センターと共同で研究開発中です。今後は後進の育成とがん生殖の充実を主眼に考えています。婦人科内視鏡手術は子どもを授かる可能性を残すための妊孕性温存手術を多く実施しております。漢方分野では日本東洋医学会漢方専門医・指導医として後進の育成に務めています。2019年には全日本鍼灸学会の大会長を拝命し、河村たかし名古屋市長を招聘し大会に華を添えていただきました。役職として2019年より日本産科婦人科学会婦人科外来診療ガイドラインの代表幹事を務め、我が国の産婦人科医療に微力ながら協力しています。

研究面では大学院時代より一貫して医学部生化学教室でエストロゲン合成酵素アロマターゼの研究に従事しております。

アロマターゼ阻害剤の子宮内膜癌に対する抑制効果の研究で学位を取得後、アロマターゼノックアウトマウスを用い、肥満、摂食行動をテーマにした基礎的研究に携わり、医局員の学位作成を指導しております。当研究は日本女性医学会最優秀演題を2回獲得後、文部科学省科学研究費補助金を獲得し現在も継続しております。

教育は医学部、保健学科大学院、医療科学部大学院の3部門で講義、臨床実習の指導を担当しています。医学部では産婦人科学と東洋医学を講義し、医師に求められる高い倫理観が備わるように教育することを心がけています。2023年度は医学部3年生を対象に富山大学附属病院和漢診療科と漢方医学アクティラーニングラーニングプログラムの共同開催を予定しております。時間外学習にもかかわらず、医学部3年生6名が自主的にプログラムに参加希望していただき、将来的に藤田医科大学の漢方部門を担う人材になっていくと確信しております。医療科学部大学院の修士課程は体外受精の胚培養士資格を取得することが重要なので手技を中心に指導をし、今後胚培養士を多数育成したいと考えております。

藤田学園には医学部入学より33年間お世話になっており、この間藤田学園が日本トップレベルの組織になっていった過程をその中で体現でき大変幸運でした。今後藤田学園が世界のトップレベルの組織になれるよう微力ながら協力する所存です。今後も引き続き、諸先生方のご指導ご支援を何卒よろしくお願いいたします。

